

地域の伝統行事へ多数の生徒が参加

お盆や豊年祭等、地域行事への出席扱い依頼の文書が多数あった。那覇南部地区の学校ではこんなに多くはないだろう。北部地区が伝統行事を守り継承している証拠だろう。辺野古区長から直接電話があった際に「地域も高齢化が進み、高校生を中心とした若者が行事に参加してくれなければ成り立たなくなった」と仰っていた。その通りだろう。



沖縄県教育振興基本計画の「教育の目標」にも「平和で安らぎと活力ある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際社会・情報社会等で活躍する心身ともに健全な県民を育成する」とある。また、施策の13の柱にも「4.地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成」、「6.豊かな感性を育む文化の継承と発展」が謳われている。

秋田県が、学テで全国1位になって注目されているが、秋田県は、地元に残らず関東圏への人材の供給源となっていて、地元の衰退が問題となっている。今、本県も県外難関国公立への進学を推し進めている。優秀な人材が育ち、県外・国外で活躍してくれることは喜ばしい。しかし秋田県のように地元が衰退しては元も子もない。相反するかもしれないが、グローバルで、なおかつ地元沖縄を支えてくれる優秀な人材が多く育って欲しい。そのためには、学力向上は勿論、ローカルを大事にし、考えることのできる人材の育成（グローバル人材の育成）だ。郷土や地域を愛し誇りに思う心は、郷土の歴史を学び、文化に触れ、継承していくことで育成される。そこに学校も積極的に協力したい。

薬物乱用防止講話

9月22日（金）、薬物乱用防止講話が行われた。講師は県警本部生活安全部少年課課長補佐の新垣和哉氏であった。新垣氏は県教委から派遣された中学校の教師で、生徒の心を掴むのが上手いと感じた。

薬物乱用というと、私が以前勤務していた学校で脱法ドラッグに手を出し、治療が必要になり退学した生徒のことを思い出す。薬物は確実に児童生徒の身近に忍び寄っている。また芸能人やスポーツ選手が薬物で逮捕される事案が多く報道され、生徒に悪影響を及ぼしていることも気がかりだ。

今後も薬物防止教育の充実を図って欲しい！



